

式 辞

新しい門出を祝うかのように、淡いピンク色の花びらが舞う平和町にて、学び舎の門を潜られた 120 名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。在校生、教職員一同 1 心より歓迎します。そして、ご臨席いただきました保護者の皆様には、心からのお祝いを申し上げます。

令和七年度、金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校、第 79 回入学式を挙行できますことは、入学生はもちろん在校生、そして私たち教職員にとりまして大きな喜びです。本日の入学式を迎えるにあたり、金沢大学和田隆志学長をはじめ、金沢大学教職員の皆様、同窓会の皆様、そして、本校を支えてくださる地域やすべての皆様に心から感謝申し上げます。

さて、本校の歴史は、戦後わずか 2 年後の昭和 22 年 5 月、金沢高等師範学校に旧制附属中学校が設置されたことに始まります。翌年の 4 月には学制改革により附属高校となり、以来「昭和の松下村塾」を標榜し、「自主自律」の校訓のもと生徒と教職員がともに学び、自己を磨き高める教育活動を展開してきました。

「自主」とは、他者から保護や干渉を受けずに独自に行うことです。また「自律」とは、自分を抑え自分を律することです。「自主」と「自律」をうまく調和させ、自己を高めるのは大変困難なことです。そこで、一年生になる皆さんには、本校での高校生活を有意義に送る上での、三つのキーワードを送ります。

一つ目は「失敗を恐れない」です。失敗を繰り返しても良いという意味ではありません。失敗することで多くを学び、それにより得た経験を次に活かし、成功へと導くことが肝心だと考えます。また、立ち直ることは、より一層個々の人間性を大きく成長させるチャンスでもあります。昨今、レジリエンス教育の必要性が再注目されています。失敗を恐れず次に繋がる道筋を立てることが重要と考えます。

次に二つ目は「先輩の背中を見て学ぶ」です。皆さんから見て、二年生や三年生たちはすでに実績を積んでいる先輩でもあります。その先輩たちの姿勢や行動を見ているだけで、言葉はなくてもその情熱やメッセージが伝わってくると思います。やがて皆さんが、先輩たちの背中を見て成長し、二年生、三年生となった暁には、今度は新入生から背中を見られる存在になっているはずです。

最後の三つ目は「自分に誠実であること」です。自分との約束は必ず守りましょう。自分のことですから、後伸ばしや放棄することは簡単にできます。だからこそ、自分に対して誠実に向かい合ってください。以上の三つは、「自主自立」という目標に必ず到達できる道標になると思います。

最後になりますが、保護者の皆さま、改めましてお子様のご入学、おめでとうございます。私たち教職員全員は、全校生徒と保護者の皆様、そして同窓生の皆様と力を合わせて、「令和の松下村塾」といわれるよう、より多くのことを成し遂げ、喜びに満ちた高校生活を歩めるようサポートしていきます。本校へのご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます、式辞といたします。

令和 7 年 4 月 8 日

金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校
校長 大村 雅章